

≪鳥取市青谷町版総合戦略【第2期】施策体系一覧≫

ID	大項目	項目	施策	新規・継続の別	内容	現状	目標	実施主体	具体的実施施策	重点施策との連携	達成指標	進捗状況	コメント	担当課
1	I 地域コミュニティ推進による住民活力の創出	1. 地域コミュニティの再興	ボランティア活動の促進	新規	各種ボランティア活動の推進による特色ある地域活動の展開	青谷上寺地遺跡関係では、県が各種団体に委託している草刈りなどのスーパーボランティア事業がある。	青谷上寺地遺跡スーパーボランティア事業の充実と各地域まちづくり協議会や各種団体のボランティア事業の推進	総合支所 まちづくり協議会 各種団体	①スーパーボランティア事業を活用した地域の特色づくり ②まちづくり協議会事業の再興及び充実 ③既存実施団体等への新たなボランティア活動展開の提案等 ④「地区緑化事業」を活用した各地区の美観環境整備の取組促進	青谷上寺地遺跡一帯だけでなく、各地域で四季折々の花等（桜、菜の花、ひまわり、ソバ畑、アジサイ、コスモス等）を栽培し、地域の新たな魅力づくりへの取組みを促進する。来町者増加による全地区の賑わい創出と、住民のボランティア活動成果による自信と活力を引き出す契機としていく。	令和7年度までに、各地区で特色あるボランティア活動を1つ以上実施する。	継続検討	各地区まちづくり協議会のボランティア活動・地区緑化事業等を情報収集し、地区緑化事業の助成金について各地区公民館（まちづくり協議会事務局）に提案中。	地域振興課
2	I 地域コミュニティ推進による住民活力の創出	2. 地域活動への参加促進	青谷上寺地遺跡展示館の利活用	新規	青谷上寺地遺跡展示館建物の利活用	現青谷上寺地遺跡展示館は、青谷上寺地遺跡の史跡整備による令和5年秋のガイダンス施設オープンに伴って、廃止となる見込みである。	廃止後の有効な利活用について検討し、地域の活性化につなげていく	総合支所	青谷上寺地遺跡展示館建物利活用検討委員会を立ち上げ、青谷ようこそ館や旧青谷町商工会館を含む一帯の利活用・賑わい創出の観点から、利活用方法を検討する	イベント開催や青谷上寺地遺跡の観光客を対象とした利用、Wi-Fi環境整備によりリモートによる仕事場、憩いの場としての利用（サロン、子ども食堂等）など、様々な利活用方法を検討し、地域住民の利用の可能性も探る。	青谷上寺地遺跡展示館建物利活用検討委員会を立ち上げ、地域からの意見を反映した施設の活用をする。	継続検討	展示館閉鎖後、令和6年に総合支所庁舎修繕に伴い、一時移転先となった。建物の利活用可能な時期が先送りになったため、今後の状況をみながら、検討を進める。	地域振興課
3	I 地域コミュニティ推進による住民活力の創出	2. 地域活動への参加促進	障がいのある人の参加促進	新規	障がいのある人の社会参加の促進	障がいのある人に対する理解が進まないためか、障がいのある人が社会参加できる機会が限定的。	障がいのある人が参加できる業務・イベント等の情報を入手し関係団体へ提供する体制を整備し、地域への参加促進を図る。	総合支所 各種団体	①施設の維持管理やイベント等、障がいのある人が参加可能と思われる情報の入手⇒団体への伝達体制の構築 ②施設の維持管理やイベント等への参加促進	青谷上寺地遺跡が整備されることにより、障がいのある人が参加可能な業務・イベント等が増加すると推察される。これを好機とらえて参加を促し、生きがいづくりに寄与する。また、この取組みを新しい町の姿として広く広報したり学校教育で取り上げることにより、青谷町の新たな魅力を創出する。	構築した伝達体制により、障がいのある人たちがイベント等へ参加する。	継続検討	青谷かみじち史跡公園整備室から情報収集を実施。収集事項の整理と課内内部協議を開始。現在構築中である地域包括ケアシステム推進連絡会の仕組みが活用できないか模索中。	市民福祉課
4	I 地域コミュニティ推進による住民活力の創出	2. 地域活動への参加促進	美化活動への参加促進	新規	美化活動への参加促進	町内各所では、依然ゴミのポイ捨てが散見され、美観を損う要因となっている。	より一層の美化活動への参加啓発と活動実施	総合支所 青谷町自治連合会 各種団体	①観光資源への観光客向けの美化活動を促す看板の設置 ②保小中高及び市民による美化活動の促進 ③青谷全地域を対象とする美化活動推進に係る新たな住民運動の立上げ及び重点取組日等の設定	青谷上寺地遺跡整備に伴い、観光客の増加とこれに伴うごみのポイ捨て等の環境問題の増加が懸念される。青谷上寺地遺跡を含む青谷地域全域で、園児・児童・生徒をはじめ市民がこれまで以上に美化活動に取り組むことにより、遺跡の魅力の維持・向上、きれいな青谷をPRすることによる遺跡へのリピーターの増加、地域住民への環境美化意識の高揚等を目指す。	青谷上寺地遺跡に焦点を当てた美化活動の実施と美化意識を啓発する看板の設置。	継続検討	史跡公園整備エリア付近のごみ投棄状況を把握するため、県道青谷停車場井手線より北側のこみ収集を実施。令和4年度は南側エリアを実施予定。エリア全体の定点観測を踏まえて今後の具体策を検討していく。	市民福祉課
5	I 地域コミュニティ推進による住民活力の創出	3. 伝統文化の保護と継承	青谷の文化伝承	新規	青谷に伝わる民話の語り部、伝統文化の継承	青谷に由来する民話や伝統文化の継承をする機会が少なくなっている。	小・中学生等を対象に、民話を聞く機会や、伝統文化を伝える機会を作る	総合支所 青少年育成青谷町地区協議会	①青少年育成青谷町地区協議会の事業の中で、青谷に伝わる民話や伝統文化について話を聞いたり体験したりする機会を設ける。	青谷上寺地遺跡はもろろんのこと、青谷に由来する民話や伝統文化に触れることで、郷土愛を深め、伝承者の育成を図る。	伝承者を発掘し、活動グループを立ち上げ、伝統文化を継承する。	継続検討	令和4年度実施にむけて準備中。	青谷町分室
6	II 地域利便の向上による住み良さの創出	1. 生活インフラの整備	生活交通運行対策	継続	生活交通運行	日ノ丸自動車（勝部線、日置線、長和線）、市有償運送（絹見線、青谷浜村線）を運行中。	地域生活交通の維持確保及びオンデマンド方式等の運行形態の検討	総合支所 まちづくり協議会等	①青谷地域生活交通協議会の運営・協議の実施 ②青谷地域に適したバス路線の運行のあり方の検討 ③共助交通やバス代替タクシーなどによる運行区域拡大と利便向上の検討 ④生活交通を活用した青谷上寺地遺跡を含めた地域資源のPRの実施	JR青谷駅利用者が青谷上寺地遺跡を訪れる際の、地域交通路線の運行を図り、地域住民及び来町者の利便を向上するとともに、乗客や通学児童に向けて、青谷地域の歴史・自然等の情報を提供することにより、魅力伝達や地域学習の増進を図る。	観光客も利用できる形での、生活交通手段を構築する。	継続検討	引き続き青谷地域に適した生活交通手段を検討していく	産業建設課
7	II 地域利便の向上による住み良さの創出	3. 宿泊と居住基盤の整備	居住環境の整備	新規	居住可能施設の整備	グリーンハイツあおや、望町分譲地ともに入居者募集PRは行っているが、応募問い合わせ件数は低水準にとどまっている。	グリーンハイツあおや入居者、望町分譲地購入者をはじめとする町内居住施設への入居者を増やす	総合支所	①グリーンハイツあおやへのお試し入居など柔軟な宿泊・入居の可能性を模索する。 ②青谷上寺地遺跡訪問者へ入居者募集情報や望町分譲地譲渡情報などをPRする。	町内の居住可能な施設やその環境をソフト・ハード両面で整備し、青谷上寺地遺跡の訪問者にPRすることにより青谷町への移住・定住人口を増加につなげる。	青谷上寺地遺跡をからめたイベントなどの際に、創意工夫を凝らした入居者募集・PR活動を年1回以上行う。	継続検討	①は建築住宅課と協議中 ②は未実施	産業建設課
8	III 地域資源の磨き上げと連携による賑わいの創出	1. 観光資源の連携と再編	観光資源の活用とPR	新規	インパクトのある青谷町のPR	来町される方に対する青谷上寺地遺跡整備のPRが十分に行われている状況にない。	県内外への青谷町の魅力発信	総合支所 青谷地域にぎわい創出実行委員会 青谷上寺地遺跡整備室 各団体	①青谷地域にぎわい創出実行委員会の青谷上寺地遺跡利活用部会の立ち上げ（R3年度） ②コスモスの見頃に合わせて「青谷上寺地まつり」を開催	秋のコスモス畑は山陰道から見える位置にあり、県内外の人が青谷インターで降りている。R2年は2000人を超える来訪者と新聞報道等の効果もあり、「青谷町にコスモスのきれいなおとまり」という認識が広がった。コスモス等のシーズンに合わせて「青谷上寺地まつり」を開催することで、青谷上寺地遺跡と青谷町を来町者に印象づけ、より効果的なPRを行う。	青谷上寺地遺跡利活用部会の立上げによる「青谷上寺地まつり」を開催した。これにより、地域住民の遺跡への関わりを図り、地域資源としての遺跡と地域の魅力を発信することができた。 ②「青谷かみじち遺跡まつり」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	一部実施	①R3年度、青谷地域にぎわい創出実行委員会を立ち上げ、「ボランティア養成講座」、「青谷かみじちスタンプラリー」（「青谷かみじち遺跡まつり」代替事業）、および「史跡公園の楽しみ方とまちのにぎわいづくりを考えよう」という講座を開催した。これにより、地域住民の遺跡への関わりを図り、地域資源としての遺跡と地域の魅力を発信することができた。 ②「青谷かみじち遺跡まつり」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	地域振興課
9	III 地域資源の磨き上げと連携による賑わいの創出	1. 観光資源の連携と再編	観光振興の促進	新規	宿泊可能施設の整備と土産品等の開発	町内に宿泊可能施設はほとんどない。また、青谷を強く印象づける地域の食やお土産品が十分に提供できる環境にない。	町内の宿泊可能施設を整備し、町内宿泊客を増やし周辺を観光してもらうことにより、観光振興の促進を図る。特色ある青谷の食や土産品を開発し、リピーター増加を図る	総合支所 西商工会 事業者	①町内民間宿泊可能施設（旅館業者、民泊対応事業者など）の整備の推進 ②井手が浜多目的広場や、かちへ伝承館に隣接する田原谷農村公園などをキャンプ場として整備する ③町内飲食店や商工関係者等との協力による新たな「食」「土産品」の開発を推進する ④土産品のアイデア企画の公募	町内宿泊者に青谷上寺地遺跡を中心にその周辺観光していただくことにより、滞在型観光の振興を図る。また、青谷に来町された方に、青谷上寺地遺跡とコラボした新たな「食」や「お土産」を開発、提供し、青谷観光を強く印象づけ、繰り返しの来町を誘発する。	①宿泊可能施設の整備の推進。 ②キャンプ場の環境を整える。 ③青谷の新たな「食」「土産品」の開発	継続検討	①令和4年度民泊施設で整備予定 ②引き続き検討していく ③支所と市西商工会を中心に「かみじちおもてなしプロジェクト」を立ち上げ、青谷上寺地遺跡にちなむ新たな「食」メニュー、「商品（土産品）」の開発を町内の商店等に呼びかけて取組中。数点「食」メニューを開発済。	①③④地域振興課 ②産業建設課

≪鳥取市青谷町版総合戦略【第2期】施策体系一覧≫

ID	大項目	項目	施策	新規・継続の別	内容	現状	目標	実施主体	具体的実施施策	重点施策との連携	達成指標	進捗状況	コメント	担当課
10	Ⅲ 地域資源の磨き上げと連携による賑わいの創出	1. 観光資源の連携と再編	地域振興の促進	新規	地域情報の発信	町内外への青谷上寺地遺跡整備のPRが足りない。	青谷上寺地遺跡を集中的にPRし訪問者増加を図る	総合支所 青谷町観光協会 県青谷上寺地遺跡整備室	①青谷上寺地遺跡をイメージしたキャラクターを検討する ②支所公用車に青谷上寺地遺跡のシール・マグネットをPRする ③テレビやラジオなどメディアへの情報提供や、SNS等を活用した情報発信の強化 ④青谷上寺地大使（青谷観光大使）の任命	青谷上寺地遺跡をイメージしたキャラクターを検討し、PR活動に利用する。 支所の公用車等にシールやマグネットを貼り付け町内外でPRする。	イメージキャラクターを検討し、デザイン募集を行い、着ぐるみを製作する。	継続検討	青谷支所で使用する封筒に青谷かみじち史跡公園を印刷し町内外にPRした。	地域振興課
11	Ⅲ 地域資源の磨き上げと連携による賑わいの創出	2. 歴史資源の利活用の推進	歴史的資源等の磨き上げ、観光振興の促進	新規	観光案内の強化	現在、青谷上寺地遺跡展示館があり、その他の文化施設ともスタンプラリーなどを実施しているが、観光、産業面での連携が少ない。	青谷上寺地遺跡整備と町内観光拠点・施設及び道の駅気楽里など、他の地域資源へ繋ぐ交流人口を確保する	総合支所 青谷町観光協会 青谷町ガイドネットワーク 青谷ようこそ館	①青谷上寺地遺跡の展示施設と観光、産業、特産品等を結び、ツアー回りの設置 ②各施設等を巡る御朱印ツアー等のイベント企画・実施 ③観光案内看板の設置 ④観光パンフレットの作製 ⑤レンタサイクルの活用	青谷上寺地遺跡の整備に伴い、既存の観光資源（山陰海岸ジオパークのジオスポット、日本遺産北前船寄港地など）を有機的に連携させ、短期滞在型の企画、イベント等を展開する。これにより、ストーリー性の高い地域資源活用を確立し、交流人口の増加を図ることによる、相乗的な賑わいと経済効果を高めていく。	①ツアー回りの設置 ②御朱印ツアー等のイベント企画・実施 ③観光案内看板の設置 ④観光パンフレットの作製 ⑤レンタサイクルの活用。	一部実施	①ツアールートは、青谷町ガイドネットが考案中。 ②御朱印ツアーは未実施だが、ガイドツアーを、地区公民館や観光施設が主催して令和3年度実施。 ③検討中 ④5年度予定 ⑤青谷ようこそ館にレンタサイクル設置済だが、活用を検討。	地域振興課
12	Ⅲ 地域資源の磨き上げと連携による賑わいの創出	3. 伝統産業の活性化	青谷因州和紙の産地強化	継続	因州あおや楮紙手すき和紙保存会のPR、産地イメージアップ	因州和紙は、近年手すき和紙事業者が激減し、産地としての存続と後継者の育成が喫緊の課題となっている中、「因州青谷こうそ紙手すき和紙保存会」が、平成27年度活動を再開した。	因州あおや楮紙手すき和紙保存会の活動活性化と因州和紙のPR、産地イメージアップ	総合支所 青谷地域にぎわい創出実行委員会	青谷因州和紙産地強化事業部会を中心に事業を実施する。 ①市内イベントや道の駅等へのブース設置による因州和紙のPR ②「因州和紙フェスタ&ひおき収穫祭」の開催	和紙のワークショップや和紙フェスタなどで、青谷上寺地遺跡にちなんだ和紙を使った折り紙やちぎり絵などを製作することにより、青谷上寺地遺跡と因州和紙のPRを図る。	道の駅等青谷町外で、年1回以上のイベント実施し、因州和紙をPRする。	継続検討	道の駅でPRする際に、実施に向けて検討する。	地域振興課
13	Ⅲ 地域資源の磨き上げと連携による賑わいの創出	4. 商工業・地場産業の振興	商店街の再興	新規	駅前商店街の賑わい創出	駅前に青谷上寺地遺跡展示館があるが、地元商店街とのつながりや連携が活発であるとは言えない。	駅前一帯のイメージアップを図るとともに、青谷上寺地遺跡訪問者を駅前商店街へ誘導することによる活力の創出	総合支所 まちづくり協議会 事業者	①駅前一帯のイメージアップを図る（例：駅前の複数個所のマンホールを青谷上寺地遺跡デザインにする、青谷上寺地Tシャツ、ジャンパー作成・着用など） ②青谷上寺地遺跡から駅前への訪問者誘導（例：青谷上寺地遺跡から駅前までの歩道をカラー舗装化し、道しるべなどを設置するなど）	青谷駅前商店街のイメージアップを図るとともに、青谷上寺地遺跡から駅前商店街への動線を明確化して訪問者を誘導し、沿線商店の活力と賑わいを創出する。	①駅前一帯のイメージアップ施策を実施する。 ②青谷上寺地遺跡から駅前商店街への誘導するための施策を実施する。	継続検討	①駅前一帯のイメージアップ ②産業建設課	①地域振興課 ②産業建設課
14	Ⅲ 地域資源の磨き上げと連携による賑わいの創出	4. 商工業・地場産業の振興	青谷ようこそ館の活用	継続	青谷ようこそ館を指定管理者により農産物販売、軽食販売などが行われているが、利用者の低迷と生産者等との繋がりが弱体化している。	青谷ようこそ館の飲食スペースを充実させることで集客を図り、地域特産物販売の拠点とする	総合支所 指定管理者	指定管理者と協力し、新商品を開発し、飲食の提供や加工品、地域特産物の販売等、積極的な経営展開を図る。	青谷上寺地遺跡の訪問者を青谷ようこそ館に誘導し、食事等を提供するとともに、地域の特産物をPRすることで販売促進、販路拡大を図る。	地域特産の新商品を開発する。	継続検討	引き続き検討していく	産業建設課	
15	Ⅲ 地域資源の磨き上げと連携による賑わいの創出	5. 農林漁業の付加価値の向上	農林水産物の振興対策	新規	農林水産物の振興	青谷上寺地遺跡訪問者へ特産物を機能的にPRする体制は整っていない。	地域の農林水産物振興	総合支所 生産者	①地域の特産品（梨、びわ、しいたけ、海産物など）の販売促進 ②米、梨、シイタケなどの栽培・収穫体験、施設見学イベントの開催 ③農林水産物の担い手の育成	青谷上寺地遺跡関連イベントで地域の特産物をPRすることで販売促進、販路拡大を図る。また、青谷上寺地遺跡訪問者や町外在住者なども絡めた形で農業に触れる体験を実施し地域の農林水産物の魅力を伝え、次世代の農業の担い手の候補として誘う。	①イベントの機会を捉えて、地域特産品の販売やチラシ配布等のPRを行う。 ②栽培・収穫体験、施設見学イベントを実施する。	未着手	①イベント等は未定 ②今後生産者団体と協議していく	産業建設課
16	Ⅲ 地域資源の磨き上げと連携による賑わいの創出	6. 青谷高等学校の魅力創出	青谷高校生等の地域イベント参加及びボランティア活動への支援	継続	青谷高校生によるイベントの企画・運営	「あおいち」でのボランティア活動等を通じて、青谷高校生が地域との連携を深め、地域振興にも貢献している。	ボランティアとして参加するだけでなく、高校生が企画したイベントを実施する	総合支所 青谷高等学校	青谷上寺地まつりイベントの企画、各種ボランティア活動を行う。	青谷上寺地遺跡関連イベントを実施するにあたり、高校生がイベント企画の役割を担い、地域と連携して取り組んでいく。	イベント企画1回以上。	実施予定	令和4年度青谷上寺地まつりで実施に向けて準備中。	地域振興課
17	Ⅲ 地域資源の磨き上げと連携による賑わいの創出	6. 青谷高等学校の魅力創出	「青谷学」「課題探究」と連携した青谷特産物商品の開発及び販売	新規	青谷高校生が発案した青谷の特産物等を利用した商品の地元企業やNPO法人、団体等と協力的に開発及び販売	高校生が「青谷学」「課題探究」で取り組んだ成果は、一部商品化に結び付いているものもあるが、十分に活かされておらず、対外的にPRする機会が少ない。	青谷上寺地遺跡で栽培された古代米を利用した商品、因州和紙等関連の商品を青谷高校生と協力して開発、販売する	総合支所 青谷高等学校 事業者	青谷高校生が考案した青谷上寺地遺跡関連のグッズ、お土産、青谷町内の特産物（因州和紙、鮮魚、農産物等）を利用した商品等を事業者等と連携して試作・販売を行う	青谷上寺地遺跡を積極的にPRするとともに、「青谷学」「課題探究」の成果をひろく内外にPRし、青谷高校のイメージアップを図る。	年に1品以上のデザイン企画による検討会を開催し施策品作製に取り組む。令和7年度までに1品以上の商品化を目指す。	実施済 (令和3年度)	課題探究での取り組みとして、蓮アイスを地元の方と共同開発した。	地域振興課
18	Ⅲ 地域資源の磨き上げと連携による賑わいの創出	7. 地域資源の磨き上げ	地域資源のPR	新規	地域資源の情報発信の強化	青谷地域を紹介するパンフレット等は多彩に作成され、主要な施設等で提供されているが、地域さまざまな資源の魅力をまとめたPR動画は作成しておらず、動画による情報発信は行っていない。	地域動画を作成し、動的PRを行うことにより、より情報の伝達力を高め、青谷町訪問者のリピーター化と賑わいの創出を図る	総合支所 青谷町観光協会	①観光・地域の魅力PR動画を作製し、青谷上寺地遺跡ガイド案内内で上映する ②道の駅や庁内関係各所での放映、YouTubeやSNSへの掲載等、効果的なPRの展開	青谷上寺地遺跡の訪問者に地域のさまざまな地域資源の魅力を情報提供することにより、地域へ再度の訪問客を誘う。	PR動画を作製し、ガイド案内施設内で上映する。	一部実施	令和3年度作製した青谷町観光協会のホームページに観光PR動画を一部掲載中。青谷町観光協会は、令和4年度も動画を作製予定。	地域振興課
19	Ⅲ 地域資源の磨き上げと連携による賑わいの創出	7. 地域資源の磨き上げ	地域資源のPR	新規	青谷上寺地遺跡デザイン、地紋紙の導入検討	鳥取市では、全市で統一の「風紋」の地紋紙が使用されている。	青谷上寺地遺跡をデザインした台紙による各種証明発行の検討	総合支所	青谷上寺地遺跡の地紋紙について、市役所内関係各課と協議を行いながら、デザイン化と導入を検討する	青谷上寺地遺跡の遺物等をデザインした青谷支所オリジナルの台紙で各種証明を発行することにより、青谷上寺地遺跡のPRを図り、青谷支所来庁者・青谷町来訪者へのイメージ戦略を展開する。	オリジナル台紙導入実現に向けて、初年度に関係各課と検討に入る。	継続検討	県内他自治体にオリジナル台紙の導入効果等聞き取りを実施。市民課と協議を実施。協議内容の整理と課内内部協議を開始。	市民福祉課

≪鳥取市青谷町版総合戦略【第2期】施策体系一覧≫

ID	大項目	項目	施策	新規・継続の別	内容	現状	目標	実施主体	具体的実施施策	重点施策との連携	達成指標	進捗状況	コメント	担当課
20	Ⅲ 地域資源の磨き上げと連携による賑わいの創出	7. 地域資源の磨き上げ	卓球のまちづくり	継続	卓球のまち青谷の復活	青谷高校卓球部員及びOBによる卓球教室や青谷オープン卓球大会を開催している。	卓球に触れあう機会や、参加しやすい卓球イベントの検討	総合支所 青谷オープン卓球実行委員会 各種団体	卓球のまち青谷の復活を目指し、卓球人口比率の向上を図る。 ①青谷オープン卓球大会・卓球教室の開催 ②出張卓球講習会 ③卓球に親しむためのイベント開催	青谷上寺地遺跡展示ガイダンス施設オープンに関連した卓球大会の開催	出張卓球講習会やイベント開催	継続検討	各団体と大会運営について協議を実施。令和4年度開催にむけて準備中。	地域振興課
21	Ⅳ 安全な生活環境の整備による安心の創出	1. 地域の安全環境の整備・向上	道路整備	新規	道路整備	随時又は計画的な道路設備、安全設備の維持修繕は行われているが、青谷上寺地遺跡への案内表示板等は設置されていない。	生活の利便性の向上と安全対策	総合支所 県、公安委員会等	①青谷上寺地遺跡への道路案内、道路標識等の新設の検討 ②市道の補修 ③街路灯、防犯灯の更新 ④歩道等の安全対策	青谷上寺地遺跡施設までの道路案内、道路標識等を新設し、訪問者が山陰道、国道から安全に訪問できるよう整備する。また、訪問者と地域住民の交通安全にも配慮した整備を行う。	案内看板等の施設を整備する。	継続検討	青谷上寺地遺跡施設の完成時期に合わせて案内看板等の設置を検討	産業建設課
22	Ⅳ 安全な生活環境の整備による安心の創出	2. 住民防災意識の向上と組織育成	地域防災力向上	新規	避難所運営を視野に入れた地域の防災組織育成	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、指定避難所収容人数が制限される中、大規模災害時等の地域での避難所自主運営など、自主防災組織の必要性が高まっている。	各地域の防災組織が避難所を自主運営する体制の確保	総合支所 自主防災会等	①防災リーダーの育成 ②自主防災会の組織強化 ③実行性のある地区単位での自主防災組織の結成 ④自主防災組織の育成と強化	大規模災害の発生時に、住民、施設管理者、市の3者が連携して、避難所の開設から運営までを円滑に実施するよう、自主防災組織の体制づくりを行う。	各地区で避難所の自主運営が出来るまで自主防災組織の確立。	一部実施	自主防災会の訓練の際に、段ボールベッド、簡易パーティションの組立を行い、避難所開設の経験を積んだ。わがまち防災支援補助金を進め、各地区の必要備品の充実を図った。	地域振興課
23	Ⅳ 安全な生活環境の整備による安心の創出	3. 生活弱者等の安全環境の構築	住民のつながり強化	継続	生活弱者の見守り体制強化と居場所づくり	生活弱者に必要な情報が十分伝わっておらず、生活できなくなる直前に支所等に支援を求められる事例が散見される。また、生活弱者を対象とした居場所は作られつつあるものの十分とは言えない。	『孤立』を防ぐ体制の充実	総合支所 民生児童委員 関係団体	①避難行動要支援者支援制度を活用した見守り体制の充実 ②“居場所”を運営する団体の設立・育成支援 ③『孤立』しそうな世帯を事前に把握・支援する体制の検討 ④外出の動機づけ	青谷上寺地遺跡を中心に据えたまちづくりに取り組もうとしている中、まずボランティア等に関わる地域住民が、安心していきいきと生活することができる環境をつくり、青谷地域の安全性をアピールする必要がある。“安心”、“つながり”という面での充実を図る。	避難行動要支援者登録台帳への登録の増加。 今連携の取れている居場所づくりの団体を、ふわっとカフェの会を軸に、いきいきサロンなども巻き込んでネットワーク化する。	一部実施	避難行動要支援者登録台帳への登録勧奨および居場所づくりの団体支援は継続して取り組み中。 現在構築中である地域包括ケアシステム推進連絡会の仕組みが活用できないか模索中。	市民福祉課
24	Ⅳ 安全な生活環境の整備による安心の創出	4. 健康・福祉の充実	子育て世代への支援充実	新規	「青谷上寺地遺跡子育て応援パスポート」の導入	青谷地域の住民にとっては、県・市が発行する子育て支援パスポートを使える場所が非常に限定的。	「青谷上寺地遺跡子育て応援パスポート」の導入	総合支所	①関係部署との協議調整しながら導入可能な制度の設計 ②設計された制度に基づく協賛店への協力要請 ③カード発行 ④住民へのカード取得・利用促進	青谷上寺地遺跡を冠に掲げる「子育て応援パスポート」を発行し積極的に利用していただくことにより、「青谷に住んでよかった」とより感じていただくとともに、青谷町の地域資源のPR、子育て世代を地域全体で応援をしていくという機運の醸成等を図る。	実現に向けて、初年度に関係各課と検討に入る。	継続検討	子ども家庭課に現行制度（とりっこカード）について概要等の聞き取りと協議を実施。協議内容の整理と課内内部協議を開始。	市民福祉課
25	Ⅳ 安全な生活環境の整備による安心の創出	4. 健康・福祉の充実	観光資源を生かした健康食の開発と普及	新規	青谷上寺地遺跡にちなんだ新しい健康食の開発と普及	鳥取市食育推進委員会青谷支部の活動は伝達講習が中心であり、活動の場が限定的で会の認知も十分進んでおらず、会員確保等が課題となっている。	弥生人も食べていた食材を使った健康食の開発と普及	総合支所 鳥取市食育推進委員会青谷支部	①新しい健康食の開発支援 ②地区・集落等での調理講習会の開催支援 ③支所だより等での健康食のPR	地域住民の健康維持・増進に非常に重要な役割を担っている鳥取市食育推進委員会青谷支部に、青谷上寺地遺跡にちなんだ健康食を開発・普及していただくことにより、青谷上寺地遺跡の認知度向上、支部の魅力向上・活性化、遺跡に関連する事業に従事するボランティアを含む地域住民の健康維持・増進等を図る。	健康食を開発し、商品化する。	継続検討	健康・子育て推進課と協議を実施。食育推進委員会青谷支部と協議を実施。令和4年度にプロジェクトチームを結成予定。	市民福祉課
26	Ⅳ 安全な生活環境の整備による安心の創出	4. 健康・福祉の充実	日常生活に運動を取り入れる環境の充実	継続	ウォーキングイベント等の開催	青谷地区の健康づくり地区推進委員会では健康ウォークを実施しているものの、参加者は非常に限定的となっている。	青谷上寺地遺跡を含む観光コースを活用したウォーキングイベント等の開催	総合支所 青谷町健康づくり地区推進委員会 各種団体	①新たなウォーキングコースの設定 ②コース案内看板の設置 ③ウォーキングイベント等の開催 これらに関係団体と連携して進める ④あおや健康ポイント制導入	青谷上寺地遺跡を含むウォーキングイベント等を開催することにより、青谷上寺地遺跡のより一層の認知度向上・来訪者の増加等を図るとともに、このコースを地域住民等に日ごろから活用いただくことにより遺跡に関連する住民の理解を高め、事業に従事するボランティアを含む地域住民の介護予防、健康活力増進等を図る。ウォーキングコースの設定においては、シオトレイルとの連携を図ること、青谷地域住民だけでなく、来訪者にも魅力あるコースづくりを図り、健康増進と交流増進に努める。	あおや健康ポイントカード加入者登録数500人を達成する。	継続検討	観光・ジオパーク推進課と協議を実施。協議内容の整理と課内内部協議を開始。健康ポイント制度の導入可否を検討するため、県内他自治体から情報収集を開始。	市民福祉課